

釜ヶ崎講座 ニュース	No. 7 4 号
	発行日 2026 / 8 / 3
	〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋 2-9-12-202 〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋 1-9-7 釜ヶ崎日雇労働組合気付 事務局電話 090-3823-9794 郵便振替 00940-1-132778 メール kamakouza@cwo2.bai.ne.jp
ホームページ http://cwoweb2.bai.ne.jp/kamakouza	

☆本年も第55回釜ヶ崎夏祭り開催近づく！

例年通り、釜ヶ崎講座は8月15日に

釜ヶ崎歩きツアーを開催！☆

☆ご注意！釜ツアーは猛暑対策で朝の9時に出発、

午前中に釜地域内外・周辺を回ります☆

講座会員・読者、友人の皆様、ご無沙汰しています。釜ヶ崎講座です。

日頃からの皆様のご支援・ご協力、また継続してカンパをお送り頂き、この紙面をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて2026年盛夏、お盆の時節、今年で55回目を迎える「第55回釜ヶ崎夏祭り」の開催がやってまいりました。後日の夏祭り実行委員会が策定するスケジュールでお知らせしますが、多彩な催しにご期待ください。「第56回釜ヶ崎夏祭り」ー 三角公園に来て、新たに今の釜ヶ崎を知り、また大いに楽しんでください！

8月15日、今夏の釜ヶ崎歩きツアーは猛暑対策で

午前8時30分に受付、午前9時に出発。涼しいうちに

釜ヶ崎地域内外を回ります！

釜ヶ崎歩きツアーのスケジュール

暑さ対策で昨夏よりさらに 1 時間早めてのスケジュールです！

○ 日時・受付・集合時間 2026年8月15日（土）午前8時30分から受付、9時に出発。

○ 受付・集合場所 釜ヶ崎日雇労働組合事務所
大阪市西成区萩之茶屋1-9-7

（JR新今宮駅東口から国道43号へ出て、阪堺電車踏切超える。西側のR43号横断歩道を南方向に渡る。ローソン左角、「銀座通り」南へ15Mほど歩き、（銭湯・「入船湯泉」の前を通過する）
すぐ右折、5M先、小路地を左折、右並びに組合入り口のフェンスが見えます！）

○ 参加費（資料代） 500円 事前の予約いりません。

○ 案内人 水野阿修羅さん

○ 問い合わせ 釜ヶ崎講座事務局 090-3823-9794
（9時になると出発、そのあと電話されても、追いつくのが大変です。問い合わせは
8時40分ごろまでにお願いいたします。）

主催 釜ヶ崎講座

さて、これより去る第56回釜ヶ崎越冬の闘い（2026年12月28日～2026年1月5日早朝）以降の釜ヶ崎講座関連の取り組みを簡潔にご報告し、皆様への問題提起に代えさせていただきます。

① 団結して自治の創出へ

「第56回釜ヶ崎越冬闘争」がたたかわれる

連帯して釜講座は1・3釜ヶ崎ツアーを行う

上記期間を中心として、第56回釜ヶ崎越冬の闘いが、三角公園をメインにしながら打ちぬかれました。例年通りとはいえ、昨年の11月より、責任ある個人・団体による越冬闘争実行委員会が、話し合いを積み重ねて、1人の餓死・凍死者も出さない闘いを最後まで貫徹する決意を打ち固めていきました。

生保取得や高齢化の流れの中、「年末年始臨時宿泊者」の数の減少が進む中でも、仲間の命を守るたたかいを肝に据えながら、約200名近くのシェルター等利用者、釜周辺に野宿する50名近くの仲間の防衛行動が

続けられました。またこれに並行して、「住まいとくらし SOS おおさか実行委員会」が30日～3日に「年末年始緊急相談窓口」を今年も立ち上げて、おもに若者の緊急支援に動きました。

新年2日には、恒例の「餅つき大会」が三角公園にて早朝より取り組まれました。集まった労働者は旧年の仕事・生活の過酷さから離れて、「新春・正月気分」の中、笑顔で餅をほおばることが出来ました。

この日の「餅つき大会」に並行して、センターの未来を提案する行動委員会が「青空討論会」を開き、新しい西成総合センター規模縮小問題と大阪市による「あいりん労働者貯蓄金」の不当な使い込みを柱とした問題を提起し、討論がされました。

討論の中で今後も行政の理不尽には毅然と対応しながら、課題のワンストップ窓口の仕組みづくりの実現を目指し、粘りつよく交渉を続けて勝利していくことが確認されました。

一方、釜ヶ崎講座は、例年どおり2026年新春釜ヶ崎歩きツアーを、1月3日午後1時より、挙行し、この日、24名の参加で釜ヶ崎地域以内を中心とした箇所を歩きました。

当日は福岡から4名の高校生が引率者の方と共に参加していただき、初めて釜ヶ崎を体感、「寄せ場」の歴史と文化の成り立ちを知ってもらうことが出来ました。

討論の場では当日も参加者からの多様な質問に、案内人の水野阿修羅さんは、対応をしました。

この日は、特に釜ヶ崎にたどりつき、仕事を求める若年層の実態が話題となりました。昔と違い「日雇い」の就労における資格や免許・技能がうるさい今日の下で、すんなり仕事に入っていけない現実があること、生活しながら資格取得や適性が加味される「訓練」としての就労形態＝中間的就労の仕組みの定着が必要と、と水野さんは話しました。

一方、仕事と対（つい）である居宅問題も仕事とセットで紹介される事例は少なく、特に障がいがかかえる人には、セイフティーネットの確立が急務であり、「貧困ビジネス」と言われる「囲い込み」から脱却出来ずに、借金等、生活苦に置かれ続ける現実の一片が話されました。現実をみすえた人への支援・救済の社会的仕組みづくりの取り組みが今後も求められていく、こうした思いが共有されたこの日のツアーでした。

案内人の水野阿修羅さん、参加のみなさん、この日はご苦労様でした。（この項おわり）

② 第57回釜ヶ崎メーデーがたたかわれる 大阪府・市の姿勢を糾す

5月1日、釜ヶ崎地域内、「菰小の杜」公園にて「第57回釜ヶ崎メーデー」が開催され、地域内外の労働者・住民・支援者等、約60名が参加、成功裏に闘われました。釜ヶ崎講座も参加、連帯のあいさつを行いました。

この日は未明より小雨が降りしきる中、早朝より主催者、反失連（釜ヶ崎就労・生活保障制度の実現をめざす会）、釜ヶ崎日雇労働組合などのメンバーにより、集会準備が進められました。

7時40分、釜日労・佐々木書記長の司会で開始、「釜ヶ崎メーデーは今年で57回目の開催となる。アメリカ、イスラエルによるイラン攻撃、それに追隨する高市政権が急速に軍拡と戦争準備、労働者への収奪と分断を仕掛けてきている。われわれ労働者が今こそ力を強めていく時だ。70年初頭、「釜共闘」結成以降の闘いの歴史はそのことを物語る。全世界の労働者・民衆と共に闘い、勝利しよう！」とアピールしました。

このあと、連帯のあいさつでは、「わてらと釜ヶ崎」につづいて釜ヶ崎講座があいさつ、「5・30日に『生活困窮者に対する健康支援セミナー』を開催して、生活苦にあえぐ人々の側に立ちながら、この健康支援セミナーの継続の追求と施策の実現の闘いに寄与していきたい」と訴えました。

最後に反失連の山中さんが集会の基調と行動を提起、特掃をはじめとした就労施策の実現と拡充、新センター機能の確立、釜ヶ崎労働者休眠貯金問題解決を柱とした、即日の「要望書行動」への理解と参加を訴えました。

その後、地域内を果敢にデモンストレーション貫徹しました。仕事を基軸とする諸施策の実現、性差や身体へのハンディ、国籍を理由とした待遇の差別と分断の廃止、国境を越えた真の人としての共生と平等の実現を、諸スローガン連呼で訴えました。

デモ終了後、腹ごしらえを済ますと、約40名がバス勝利号にて大阪市・府へ要望書行動に向かい、大阪府・市による問題解決を求めていきました。（この項おわり）

③ 「生活困窮者に対する健康支援セミナー」 を開催する

～共に生き、現実を見据えた「人への支援」と

共に助け合い、助かる救済の社会的仕組みづくりを～

講座会員・読者・友人の皆さん。釜ヶ崎講座は去る5月30日、西成区の今宮ふれあい会館にて「生活困窮者に対する健康支援セミナー」を当日約40名の来場者を迎える中、開催しました。

健康支援セミナー活動はかつて1980年代から「わたなべ往診歯科」並びに「歯科保健研究会」に所属した医療従事者の方々が釜ヶ崎等、保険や医療費に窮する人々への健康面からの支援を研究、実践へ道を開くための集まりとして発足し、長年活動を重ねてきました。

以来、セミナーの形で実践継続され、釜ヶ崎講座は2023年1月25日、初参加しました。

前回セミナーよりコロナ禍をへて3年が経過して、釜ヶ崎における困窮者健康支援の中身は今どう変化しているのか、新たな課題とは、ということで4人の講師の方にご報告してもらい、討論しました。

各講師の当日のテーマとお名前は次の通り。

① 釜ヶ崎支援機構の新しい取り組み～既存地域課題への取り組みと若者支援～

小林大悟さん（NPO 釜ヶ崎支援機構事務局長）

② LGBT 問題への理解の深化と釜ヶ崎での取り組みと課題ワーク～

渡辺匡人さん（ちむ訪問看護ステーション）

③ 釜ヶ崎での歯科医療での取り組みと課題～

渡邊充春さん（わたなべ往診歯科院長）

④ 生活困窮者での介護・福祉の現状～「ワンストップ相談窓口」について

障がい者支援—B 型作業所問題～

穴沢一良さん（バリアフリーサービスつばさ代表理事）

最初は小林さんからのお話でスタート。急速に進む釜ヶ崎の高齢化と最近流入の多い若者支援における特徴が話されました。

長期野宿者への支援の集中。たとえば「ヨリドコ昼食アワー」等の取り組みの持続に見られるように、今後でも可視化され、継続支援可能な仕組みの必要性が語られました。若者支援では2020年から始まった居住支援、今年開設された自立援助ホームの取り組みでの発見を報告、全国的に増加をみる「ユースの居場所」を24年度よりこの地域でも開設した様子を解説しながら、若者支援の多様なニーズに対応できるアイデアを造りつつ、取り組まれています。そして釜ヶ崎の街づくりは今もなお今後の見通しが立っていないと述べ、人が第1、「資本」の中での「賑わい」を成立させてしまうような安直な着地はせずに、この街らしい賑わいに向けて進んでいきたい、と報告しました。

つづいて渡辺匡人さんのお話。渡辺さんは冒頭「国連報告ではLGBTは世界中で差別や暴力、迫害を被っていると報告されている。LGBT 当事者に対する恐怖・憎悪・不快感などが敵対する理由とされる」と展開。いっぽう釜ヶ崎という地域は、多くは元労働者であり、精神疾患、服役、借金、さまざまな理由を抱える住人構成。

それゆえ人を必要以上に詮索しない暗黙の了解が存在する。自分に敵対しなければ、街に住む仲間、という意識があるように思うと提起。ここ釜ヶ崎はLGBT 当事者にとって受け入れてくれる懐の深い街という感覚があると語り、釜ヶ崎という街の新たな視点・役割を述べました。

3番手の渡邊充春さんは、2010年にこの地域で「垣根なき歯科医院」をめざして「歯科医院に遠い人に歯科保健を」を理念に、越冬闘争、診療活動等の歩みを、歴史を紐解きながら解説しました。日雇労働者の街から高齢者の福祉の街に、さらに障害者や生きづらさを抱える若年者、そして急速に増加する外国籍の人々—それらが、たどり着く街へと変化する中で、引き続きこの街に寄り添いながら、診療活動に専念したいと、と

報告しました。

最後は穴沢一良さん。特にこの日は福祉支援とB型作業所問題に時間がさかれ、問題が提起されました。

高齢者介護と障がい者支援B型作業所問題が、今釜ヶ崎や大阪の他地域で「貧困ビジネス」横行の問題としてクローズアップされている。ドヤを「囲い部屋」として利用して、本人の承諾なしで金銭管理を不当に業者が支配する手口等が広まっていること。B型作業所では① 架空請求—利用者が欠席しているにも拘わらず、支援を行ったように記録を偽造して加算金を請求。② 制度の悪用—利用者を自社のスタッフとして一時的に雇用し、一般就職したと見せかけて、「就労移行支援体制加算金」を不正に積み増す。③ 書類の虚偽記載—実際には勤務していない人をスタッフとして名簿に載せ、人員基準を満たしているかのように装うなどの不正。

これら事例が穴沢さん他、当日参加の事業所勤務の方からも発言があり、解決を図っていく課題として提起されました。大阪市行政はこれに対して就B型事業所の1年間の新規登録を停止する方針を発表しています。現場（労働者）の想いとしては、本来の目的・役割を理解してもらいたい、悪徳ビジネスの金儲け材料になっている現状の変更が必要だが、現場では行政の指導の名目で逆に結果を求められる締め付けとして問題になっている、との声も上がりました。

働く意欲と労働による報酬のギャップ、障がいを背負う人への無理解やひいては日本社会の背景にある低い最低賃金や労働現場における様々な格差・差別—これら複数要因のセンターにある生活苦と困窮—

「貧困ビジネス」問題への解決策の決め手が現状皆無に等しい中、今後とも課題解決にむけた実践が必要であることが、この日あらためて明らかになりました。

いずれにしましても、野宿や不安定就労が残される中では、人としての健康と生きる喜びは定着できないのです。またこの日、LGBT問題では、いまだ根深く存在する無理解と偏見が当事者を苦しめている現状が分かり、今後も釜ヶ崎の中で取り組みをさらに高めていく必要性が共有できたと思います。新労働センターにおける「ワンストップ相談窓口」の確立が困窮者の命と生活を守ると言っても過言ではありません。現実を見据えた支援体制を確立するときです。釜ヶ崎講座は今後も釜ヶ崎におけるこれら困窮からの脱却と健康支援の課題へ、注力していく考えです。当日の各講師の皆さん、ご参加の方、大変ご苦労様でした。

（以上この項おわり）

講座会員、読者、友人のみなさん。

いつも釜ヶ崎講座に対するご支援・ご協力ありがとうございます。またカンパ有難うございます。

釜ヶ崎講座は皆さんのカンパにより運営・活動を維持しています。紙面を借りてではありますが、今回もカンパを宜しくお願い申し上げます。

（釜ヶ崎講座事務局）

釜ヶ崎講座